

I 共通項目

基本目標 心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現

目標	取組の内容	評価	分析及び改善策
心の豊かさと自ら学ぶ力を育てる学校教育の実現	<p>1 豊かな心の育成</p> <p>①いじめ、不登校への適切な対応（必須）</p> <p>②道徳教育の充実を図るとともに、友愛の精神を尊重し、思いやりの心を育む</p> <p>③学校行事や部活動を通して、礼節と協調性を養い、たくましい心を育てる</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>4</p>	<p>○学級担任を中心に情報を学年所属職員で共有し、チームで解決策を検討し、役割分担して対応した。</p> <p>○不登校、不登校傾向の生徒は増加傾向にある。スクール・ソーシャル・ワーカー、子ども政策課等の外部機関との定期的な連携を深め、情報交換を密に行った。</p> <p>○道徳の授業以外の場面においても、人権意識を高める手立てを学級や学年で行った。</p> <p>○体育大会をはじめとして中体連、2年修学旅行、二中祭等の学校行事や部活動で生徒が主体的に活動に取り組んだ。</p> <p>●運動部活動が地域完全移行したが、平日の部活動についてはこれまでと同様であるので、顧問がつく状況を作らなければならない。技術的な指導ができなくても顧問として礼儀や練習に取り組む姿勢について指導することが必要である。</p>
	<p>2 基礎学力の充実</p> <p>①「めあて、まとめ（振り返り）」の完全実施とわかる授業の実践</p> <p>②家庭学習の習慣化</p>	<p>4</p> <p>3</p>	<p>○ほとんどの授業で、その時間のゴールを意識した「めあて」の提示がされており、「まとめ」も行っている。</p> <p>●「めあて」の文章表記や生徒から「めあて」を引き出すなど、授業改善を図る必要がある。</p> <p>○県教育委員会より講師を招聘し、「主体的に取り組む態度」の評価方法について研修を行い、理解を深めた。</p> <p>○家庭学習の習慣化を目指して、AIドリルで課題を出して確認を行っているが、課題がなくても自ら家庭学習に取り組む姿勢を身に付けさせなければならない。</p>
	<p>3 健康安全教育の推進</p> <p>①環境美化と整理整頓の指導徹底</p> <p>②アレルギーへの共通理解と対応の徹底</p> <p>③防災や危機意識の涵養と自己防衛意識の指導（メディア安全を含む）</p>	<p>3</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>○生徒会を中心に「自分たちの環境は自分たちできれいにする」を合言葉に朝の玄関清掃や敷地内の除草作業を行った。</p> <p>●通常の清掃時間「心トレ」では、一人一人の意識が不足しているように感じられる。</p> <p>○給食担当や学級担任、管理職など、複数の目で次月の献立表をチェックし、その後保護者に再確認することでアレルギー事故の未然防止に努めた。</p> <p>○メディア安全指導員を招聘して講義を行ったことで、生徒自身の危機管理意識を高めることができた。また、不審者対応について、警察の方から職員向けに講習をしてもらい、職員の危機管理意識が高まった。</p>
	<p>4 特別支援教育の充実</p> <p>①一人ひとりのニーズに応じた支援（必須）</p> <p>②生徒の実態把握と対応策の策定及び共通理解と共通実践の充実</p>	<p>3</p> <p>4</p>	<p>○定期的に特別支援教育部会を開き、配慮を要する生徒の情報共有と指導方針の確認を行った。</p> <p>○特別支援教育支援員や相談員の記録を全教員で回覧し、生徒の実態把握と支援の仕方について共通理解を図った。</p>

<p>5 国際化への対応</p> <p>①人権意識の高揚と豊かな人間関係づくり</p> <p>②日本の文化や地域の理解（各教科）</p> <p>③グローバルな視野を持たせる取組（総合的な学習の時間）</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p>	<p>○人権集会では、車いすバスケットボールチームの方に講演していただき、共生社会について考えを深めた。</p> <p>○キャリア教育学習では、町内だけに留まらず地域人材を講師として招き、職業講話を行った。また、3年生の総合的な学習の時間では、ライフプランニングやSDGsについて出前授業を行い、理解を深めた。</p> <p>●1年生はNICEでALTとの英語交流を行ったが、2・3年生では様々な国の人々との交流を行う機会を設けることができなかった。</p>
<p>6 教育環境の整備</p> <p>①安全点検の実施と学習環境整備の徹底（PTA、学校支援ボランティアの活動含む）</p> <p>②通信やHPなど学習成果の発信と共有</p> <p>③労働環境の適正化と働き甲斐のある職場づくり</p>	<p>4</p> <p>4</p> <p>4</p>	<p>○PTA本部、もちの木会の協力のもと、敷地内の除草や木の伐採、清掃作業及び剪定作業を実施し、きれいな環境を保っている。</p> <p>●休日の運動部活動が地域移行したため、生徒を交えての除草作業を行えなかったが、生徒自身で平日に「自分たちの環境は自分たちできれいにする」を合言葉に除草作業を行った。</p> <p>○学級通信、学校だより、学年通信は継続的に発行され、学級や学校の様子を家庭に伝えることができた。今後、総合的な学習の時間の取組などについてHPで更新を増やしていきたい。</p> <p>○運動部活動の地域移行により月80時間以上の超過勤務の職員は0であり、月45時間以上の超過勤務者も減少傾向にある。</p> <p>○業務内容の改善や見直しをすることで教員の働き方においても改善し、職場の雰囲気もとても良い。今後は行事の在り方を見直し、教育課程を改善しながら、働き甲斐を高めていく。</p>
<p>7 教職員の資質向上</p> <p>①指導力の向上（必須）</p> <p>②教科研究と校内研修の充実</p>	<p>4</p> <p>4</p>	<p>○夏季休業中に全教員が模擬授業を実施し、教科の枠を超えた相互研修を行った。また、県教育委員会より講師を招聘し、「主体的に取り組む態度」の評価のあり方と実践を学んだ。ながよ検定に向けた補充学習など、全職員で取組を行った。</p> <p>●キャリア教育と教科の繋がりについて部会を中心として話し合いを行い、教科横断的な授業実践を行おうとしたが、まだまだ不十分である。</p>

2 自己評価のまとめ（成果・課題等）

（1）成果

- ①業務内容の改善を行うことで、働き方改革を推進することができた。また、運動部活動は完全に地域移行しており、月80時間以上の超過勤務者は0人であり、月45時間以上の超過勤務者も減少傾向にある。その結果、職員一人一人にゆとりが生まれ、生徒と向き合う時間が以前よりも多く確保でき、教材研究等の時間が確保できている。
- ②昨年度、本校において生徒間の暴力行為が多数発生したが、生徒指導主事を中心に月毎の重点目標を立て、全職員で共通実践を行った結果、今年度は大幅に減少し、落ち着いた学校生活が送れている。
- ③校内研修で具体的なICTの活用方法を学んだことで、昨年度よりも積極的に一人一台端末を活用して授業に取り組むことができた。また、AIドリルによる個別の課題配信等、各教科において積極的な活用ができています。

（2）課題等

- ①不登校、不登校傾向の生徒が、依然として多い状況にある。SCや相談員、外部機関等との連携を図りながら、生徒の背景も考慮しながら改善を図っていく。
- ②これまで以上に一人一台端末を利用することで、ICTの活用を日常化し、個別最適な学びと協働的な学びを充実させることで、主体的・対話的で深い学びを目指す授業改善を行っていく。
- ③基礎学力の定着を図る「ながよ検定」において、英語科の合格率が低下しており、日頃から少しずつ補充学習ができる取組を行い、基礎学力の定着を図る。

3 学校関係者評価

- ・評価は妥当である。
- ・働き方改革が進み生徒と向き合う時間が多くなったことは望ましい。授業や普段の生徒との触れ合いの中で信頼関係が築かれ学力向上や不登校対策につながることを期待したい。
- ・不登校は小学校でも増加傾向にあり、小学校との連携を重視していく必要がある。様々な機関との連携を今まで以上に進めてほしい。
- ・グローバルな視野を持たせる取組の具体的な活動計画はなかなか難しいが、オンラインでの会話や留学・ホームステイを体験した人の講話、町内に外国から働きに来ている人の話を聞く等、ちょっとしたことから始めてはどうか。
- ・どういうことがいじめになるのか、知る機会があったほうがよい。

4 対策等の見直し（学校関係者評価を受けて）

- ・グローバルな視野を持たせる取組では、キャリア教育と関連付けられないか検討していく。
- ・いじめ対策委員会を中心に、言葉だけでなく、こういった態度や行動がいじめにあたるのかというのを議論し、各学級に周知していく。

【留意点】

評価は、自己評価をもとに学校関係者評価にも十分配慮し、総合的に判断し記入する。
評価は4段階とし、以下による。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 4 十分達成できている | 3 概ね達成できている |
| 2 どちらかという達成できていない | 1 ほとんど達成できていない |